

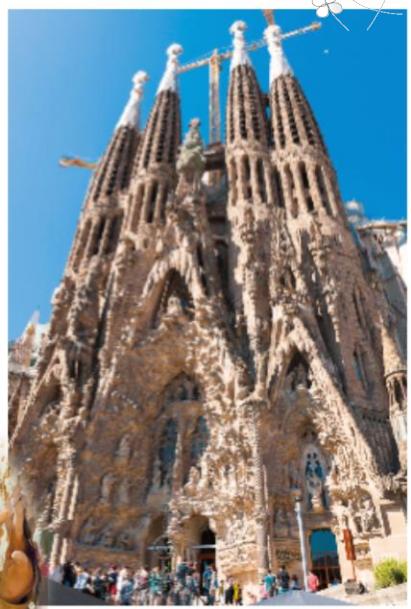
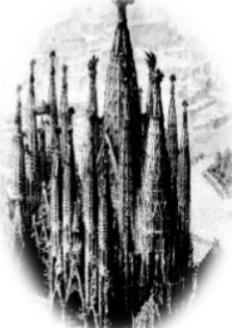
# 3年道德通信



第24号

## 第24回『サグラダ・ファミリア』—受け継がれていく思い

1882年着工のサグラダ・ファミリア。ガウディは「後を引き継ぐ者たちが現れ、より壯麗に命を吹き込んでくれる。」という言葉を残しています。この教会の彫刻を40年以上彫り続けている外尾悦郎さんは、「サグラダ・ファミリアは永遠の命をもった生き物のような大きな存在」で、「時代を超えた営みの中では、人間一人の命なんてちっぽけなもの」と強く感じるようになります。ガウディの思いは外尾さんたちに引き継がれ、外尾さんの思いも次の世代に引き継がれます。教会の建設は時代を超え、世代を超えて進められています。



外尾さんが感じる「永遠の命」とは、どのようなものでしょう。

- ・サグラダ・ファミリアに今まで関わってきた人たちの想い。
- ・作品に宿っていた心と共に作品が大切にされていくこと。
- ・様々な人の人生の結晶だから、本当の時間以上に雄大な時間が重なっている。
- ・永遠に受け継がれていくもの
- ・自分がいなくなっていても、その作品は残り続けてなくなることはないということ

「明日はもっといいものを作ろう。」に込められたガウディの思いとは？

- ・美しく仕上げるために、日に日にいい物を作っていくという思いが込められている。
- ・ずっと一生懸命に打ち込んでいたら、仲間とも仲良くなったり、技術面も成長できる。いろいろな意味でいいものになっていく、と言う意味だと思う。
- ・今日よりも明日、明日よりもその次とずっと進化し続ける、その気持ちを大切にしたいという思い。

## 時を超えてつながる思いを見つめよう。

